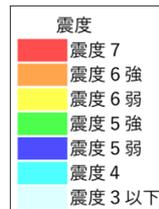
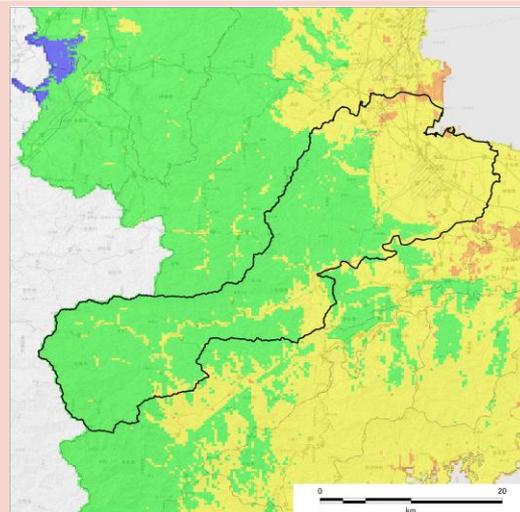
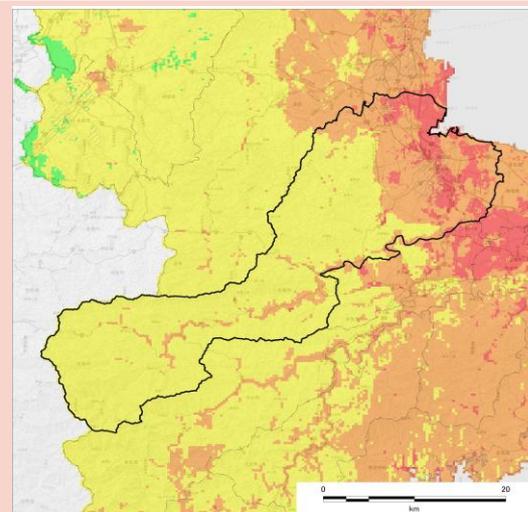


1. ハザード評価

(1) 地震動

【L2】理論上最大クラス

【L1】過去最大クラス



< 震度別面積割合 >

(参考) 総面積 = 623.6km²

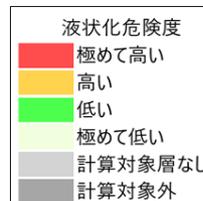
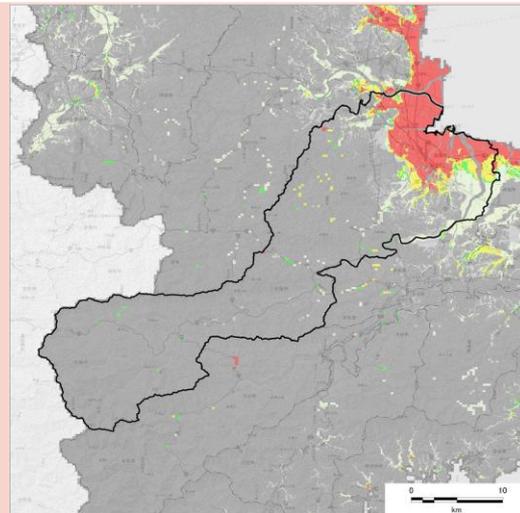
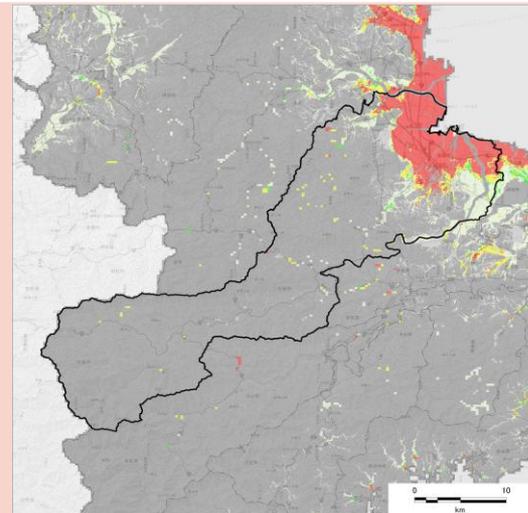
	【L2】理論上最大クラス		【L1】過去最大クラス	
	面積 (km ²)	割合	面積 (km ²)	割合
7	56.2	9%	0.0	0%
6 強	140.7	23%	8.9	1%
6 弱	426.7	68%	218.5	35%
5 強	0.0	0%	396.2	64%
5 弱	0.0	0%	0.0	0%

※震度別面積の合計は、四捨五入により総面積と一致しない場合があります。

(2) 液状化

【L2】理論上最大クラス

【L1】過去最大クラス



< 液状化危険度別面積割合 >

(参考) 総面積 = 623.6km²

	【L2】理論上最大クラス		【L1】過去最大クラス	
	面積 (km ²)	割合	面積 (km ²)	割合
極めて高い	60.9	10%	52.3	8%
高い	12.9	2%	17.2	3%
低い	2.1	1%未満	4.8	1%未満
極めて低い	24.9	4%	26.4	4%
計算対象層なし	522.8	84%	522.8	84%
計算対象外				

※液状化危険度別面積の合計は、四捨五入により総面積と一致しない場合があります。

1. ハザード評価

(3) 沿岸最大津波高

L2	L1
5m	4m

(4) 沿岸津波到達時間

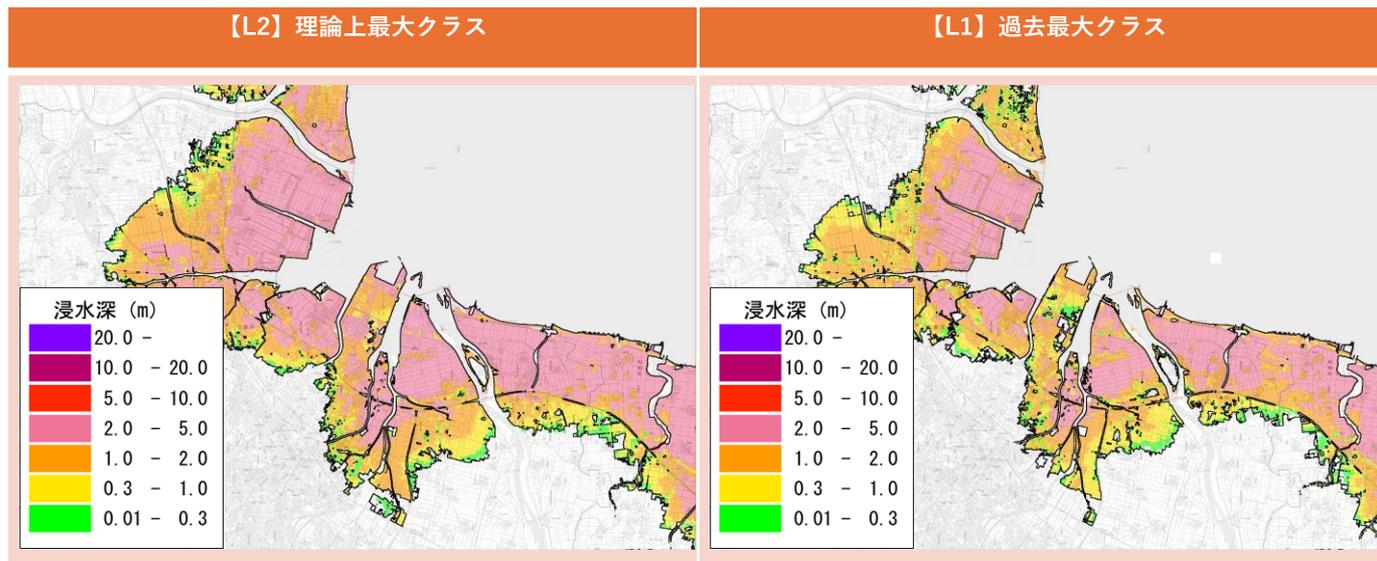
L2	L1
53分	59分

※沿岸で1mの水位変動が発生するまでの最短の時間

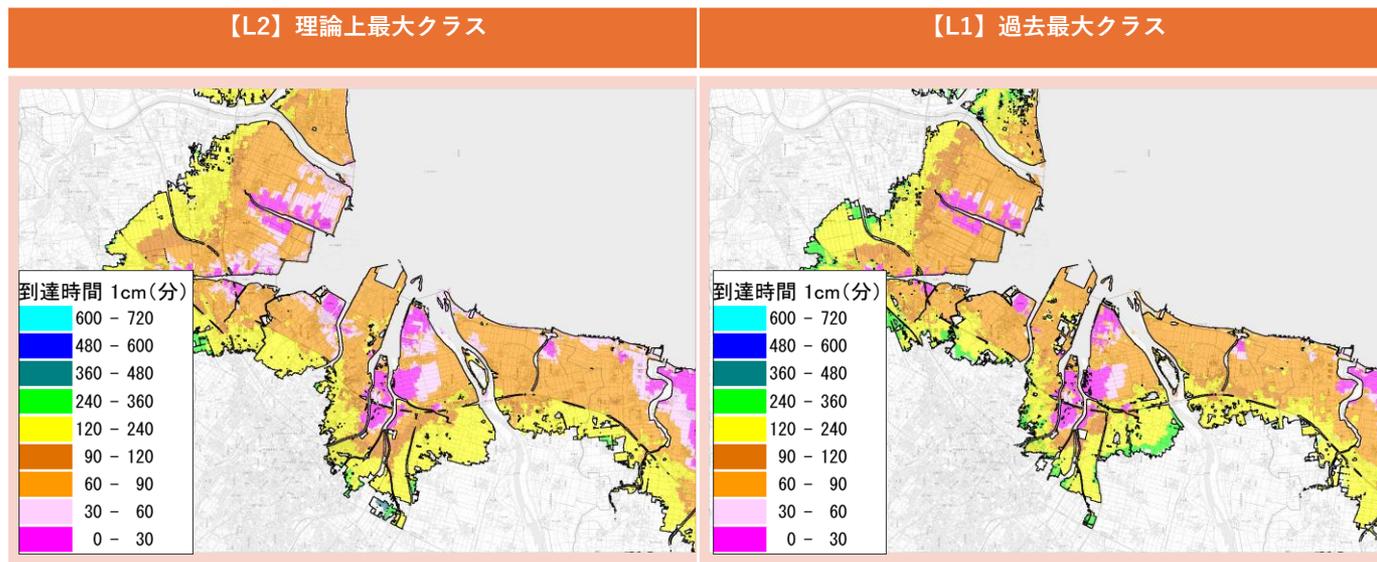
(5) 津波浸水面積

L2	L1
3,934ha	3,345ha

(6) 津波浸水深



(7) 津波浸水深到達時間 ※陸上で1cmの浸水が発生するまでの時間



2. リスク評価

(1) 人的被害

※L2の死者数は津波ケース①の推計結果

※季節・時間帯：冬・深夜

※津波からの早期避難者比率が低い場合

(2) 建物被害

※L2の全壊・焼失棟数は津波ケース⑨の推計結果

※季節・時間帯：冬・夕方

(3) 火災被害

※季節・時間帯：冬・夕方

定量評価項目	L2	L1
死者数 (人)	約3,700	約800
うち建物倒壊等	約1,100	約80
うち津波	約2,500	約800
うち急傾斜地崩壊等	約10	約10
うち火災	約40	-
うちブロック塀 ・自動販売機転倒 および屋外落下物	-	-
重傷者数 (人)	約2,100	約200
軽傷者数 (人)	約4,200	約1,400
建物倒壊等による 自力脱出困難者数 (人)	約4,400	約400
津波被害による 要救助者数 (人)	約800	約200
津波被害による 要搜索者数 (人)	約2,400	約800

定量評価項目	L2	L1
全壊・焼失棟数 (棟)	約26,000	約3,600
うち揺れ	約20,000	約1,800
うち液状化	約400	約300
うち津波	約2,200	約1,300
うち急傾斜地	約60	約60
うち火災	約3,100	約10
半壊棟数 (棟)	約18,000	約14,000
うち揺れ	約13,000	約7,400
うち液状化	約1,000	約1,600
うち津波	約3,500	約4,700
うち急傾斜地	約100	約100
ブロック塀等の 転倒数 (件)	約3,200	約800
自動販売機の 転倒数 (件)	約60	約50
屋外落下物の 発生数 (件)	約5,100	約100

定量評価項目	L2	L1
炎上出火件数 (件)	約50	約10
残火災件数 (件)	約40	-
津波火災発生件数 (件)	-	-

概観 (理論上最大クラス) 【ハザード評価】

広い範囲で震度6強以上（一部震度7）となり、平野部を中心に液状化が発生します。また、堤防の沈下により地震発生直後から、低い土地では広く津波の浸水が生じます。

【リスク評価】

死者の約7割が津波で亡くなり、また揺れによって市全体の約2割の建物が全壊することで建物倒壊等による死者や自力脱出困難者が発生します。津波による全壊や火災による焼失も発生します。

※「-」：わずか（5未満）

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。